

6-1 東海地域とその周辺地域の地震活動（2006年5月～10月） Seismic activity in and around the Tokai area (May – October, 2006)

気象庁 地震予知情報課
Earthquake Prediction Information Division, JMA

(1) 東海地域とその周辺地域の地震活動（第1図，第2図）

2006年5月～2006年10月の東海地域とその周辺地域の月別震央分布を第1図に，主な地震の発震機構解（下半球等積投影）を第2図に示す．

【静岡県とその周辺】今期間のM4以上の地震は，伊豆半島東方沖で5月2日18時24分に発生したM5.1と2分後に発生したM4.3の地震，及び新島・神津島近海で7月9日に発生したM4.8の地震であった．想定震源域内で発生したM3以上の地震は，8月31日静岡県西部M3.0の1回であった．

【浜名湖付近】東側領域で2000年後半から地震活動の低下した状態が継続している．西側領域も2006年春頃からやや静穏である．

【愛知県とその周辺】今期間のM4以上の地震は，7月16日愛知県西部のM4.0であった．また，8月27日頃から9月1日頃にかけて，長野県南部～愛知県東部で低周波地震（低周波微動）の活動が活発化し，これと同時期に，静岡県の佐久間，本川根（静岡県整備）などの歪計にゆっくりとした変化が観測された（本巻「東海地域の低周波地震活動と短期的スロースリップ」の頁参照）．

【伊豆】伊豆半島東方沖では1月頃から間欠的に地震活動が活発化した．特に4月17日頃から始まった活動では震度1以上の地震が多発し，4月21日02時50分に一連の活動で最大規模のM5.8の地震が発生した（最大震度4）ほか，4月30日13時10分にM4.5の地震が発生し，最大震度5弱を観測した．伊豆半島東方沖の地震活動は5月に入っても5月2日にM5.1（最大震度4）が発生するなどやや活発であったが，5月半ばには収まった（第76巻「伊豆半島東方沖の地震活動の概要」の頁参照）．

その後，11月10日から再び地震活動が始まり，11月12日にはほぼ収まった（第3図）．この活動で最大規模の地震は，主な地震活動域から東に離れた場所で発生した2006年11月12日23時46分のM3.4（最大震度1）であった．この地震活動に先行して東伊豆の歪計データなどに変化が見られたが，地震活動と共に収まった．東伊豆の歪計データの24時間階差の最初の極大値を用いて地震活動のおおよその動向を予測した結果は，実際の活動の規模より大きいものであった．

11月24日にはM4.3（最大震度3）の地震が発生したが，活発な地震活動は当日のみで，11月26日にはほぼ収まった（第4図）．第5図に，伊豆半島東方沖の地震活動一覧表を示す．

【その他】2004年9月5日にM7.1とM7.4の地震が発生した紀伊半島南東沖の余震活動は収まりつつあり，今期間M4以上の地震は2回発生した．

以下に、静岡県周辺、愛知県周辺及びその他の地域における月毎の最大地震 (M 3.0) を示した。

月	静岡県周辺	愛知県周辺	その他
5	2日 伊豆半島東方沖 M5.1		24日 三重県南東沖 M4.3
6	29日 静岡県西部 M3.2		3日 福井県嶺南 M4.1
7	9日 新島・神津島近海 M4.8	16日 愛知県西部 M4.0	3日 三重県南東沖 M3.3 11日 岐阜県美濃中西部 M3.3
8	31日 静岡県西部 M3.0	25日 愛知県西部 M3.9	25日 三重県南東沖 M3.7
9			24日 新島・神津島近海 M3.1
10			4日 三重県南東沖 M3.3 30日 神奈川県西部 M3.3

(2) 東海地震想定震源域内の固着域周辺の地震活動の推移 (第6図～第9図)

第6, 7図の矩形領域の地震を、内陸の地殻内の地震とフィリピン海プレート内の地震に分類し¹⁾、地震活動指数の推移を見たのが第8図である。

今期間、東海地震の想定震源域内固着域周辺における微小地震 ($M \geq 1.1$) の活動指数 (第8図右上の2つ) は、地殻内でやや高かった。これは、固着域の地殻内で散発的に地震活動が活発であったことと、6月29日に静岡県西部で発生した M3.2 の地震とその余震活動によると考えられる。やや大きい規模 ($M \geq 2.0$) の地震活動指数 (第8図左下の2つの図) は、地殻内は概ね平常であったが、フィリピン海プレート内はやや低めであった。

第9図は、固着域のフィリピン海プレート内の地震活動について、M の下限を M1.1, M2.0, M3.5 と上げて見たものである。最下図より、2001 年後半ごろから M3.5 以上の地震発生回数が少なく、長期間静穏な状態が継続していることがわかる。

注) 第8図の地震活動指数とは、定常ポアソン過程を仮定し、デクラスタした地震回数を指数化したもので、指数が高いほど活発であることを示す。基準にした期間は1997年から2001年(5年間)で、30日と90日と180日の時間窓を30日ずつずらして計算した。指数0～8の9段階の出現確率(%)はそれぞれ1, 4, 10, 15, 40, 15, 10, 4, 1である。

(3) 愛知県のフィリピン海プレート内および地殻内の地震活動 (第10図～第12図)

第10図の矩形領域の、地殻内とフィリピン海プレート内の地震活動指数の推移を見たのが第11図である。

愛知県のフィリピン海プレート内の微小地震 ($M \geq 1.1$) の活動指数 (第11図右上から2つめの図) は、一時期低下したものの、最近は平常に戻っている。やや大きい規模 ($M \geq 2.0$) の地震活動指数 (第11図左下図) は、2004 年後半からやや低下した状態が続いていたが、最近は回復傾向であるように見える。さらに大きい規模 ($M \geq 3.0$) の地震活動 (第12図右下図) は、2003 年頃から低い状態が続いている。

愛知県の地殻内の微小地震 ($M \geq 1.1$) の活動指数 (第11図右上図) は、特段変化はない。

(4) 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動 (第13図)

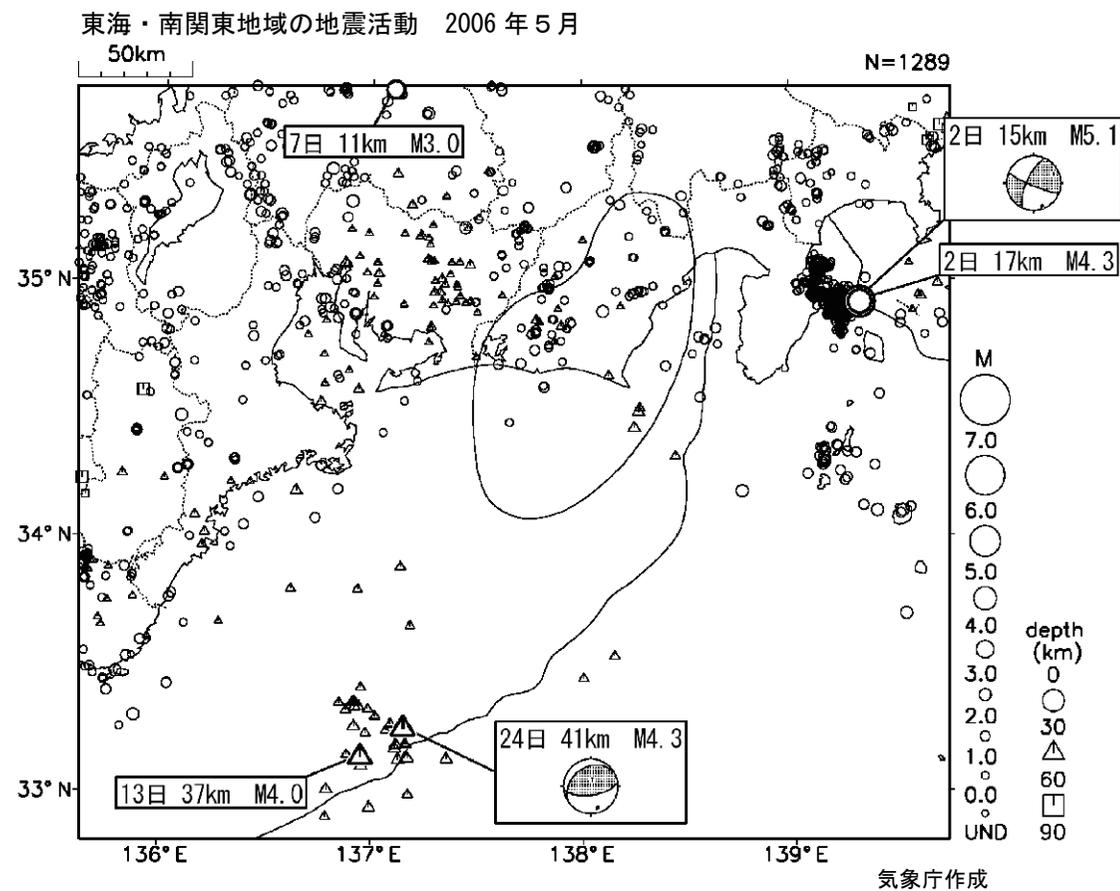
【全域 (W+E)】2000 年初め頃から活動が低下している。これは主に、2000 年は西側領域での活動低下、2000 年後半からは東側領域での活動低下によるものである。

【西側領域 (W)】2001 年 2 月のM5.0 の地震の前に地震活動が低下し，地震後に回復した．2002 年頃から再度やや地震が少ない状態になったが，2003 年に入ってから，静岡・愛知県県境付近の定常的なクラスタではないところで活動がやや活発になった．このクラスタでの地震活動は，2005 年には低調となり，2006 年に入ってから領域全体で静穏な状態になっている．

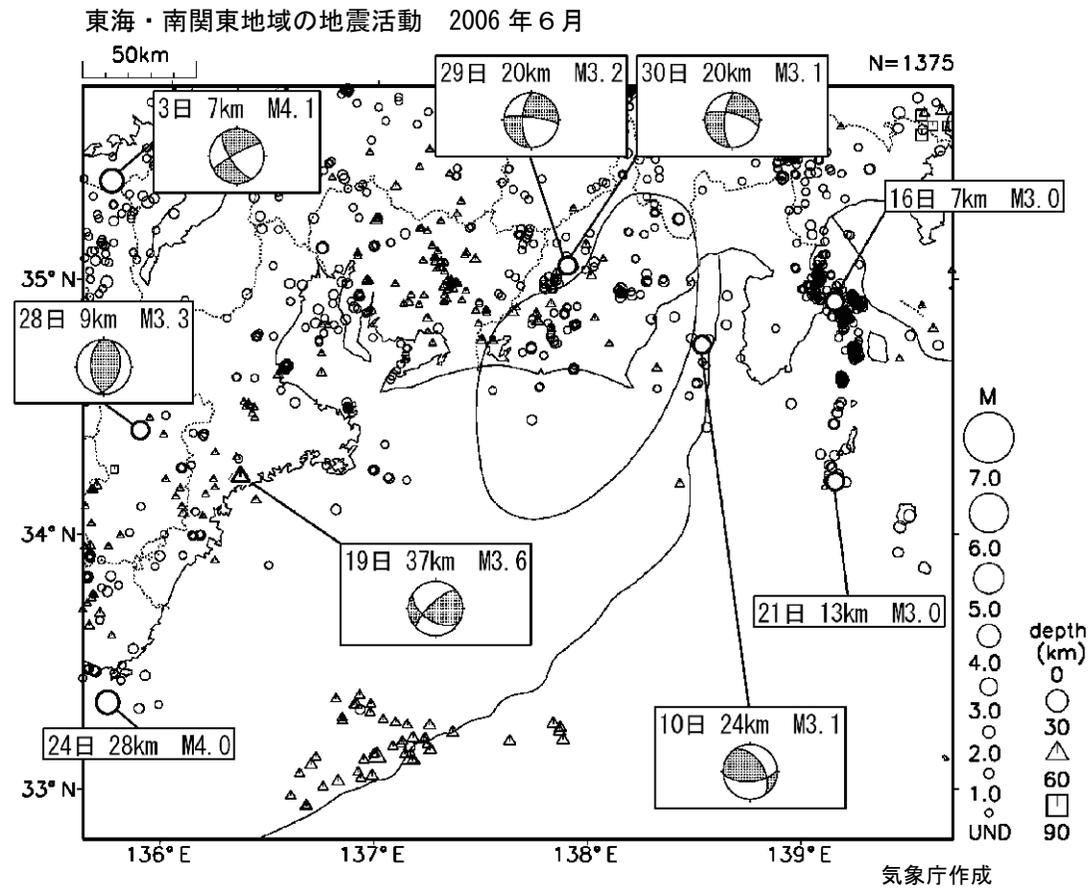
【東側領域 (E)】2000 年後半から活動指数の低下が続く中，2003 年 6 月 5 日にM3.9 の地震が発生するなど一旦回復傾向が見られたが，概ね活動の低い状況は継続している．

参 考 文 献

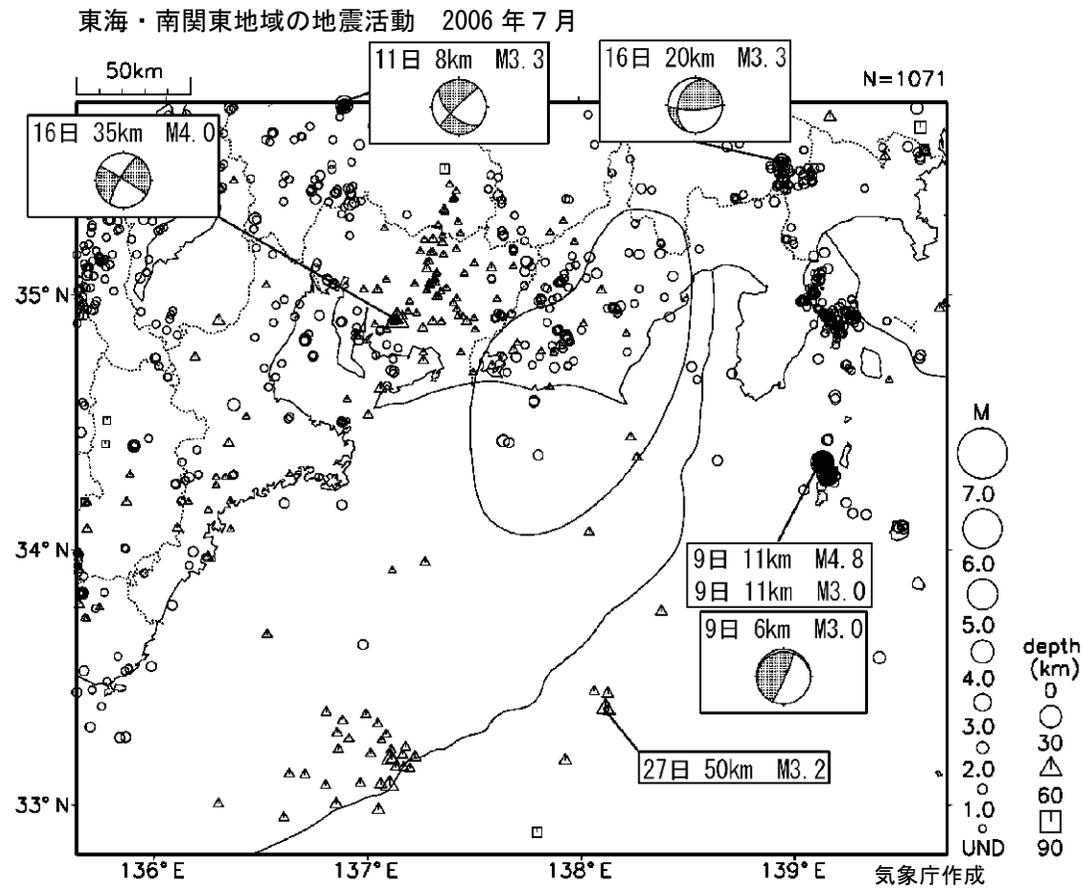
- 1) 原田智史・吉田明夫・明田川保：東海地域に沈み込んだフィリピン海スラブの形状と地震活動，地震研究所彙報，73，291-304 (1998)．



第1図 (a) 東海・南関東地域に発生した地震の月別震央分布 (2006年5月)
 Fig.1(a) Monthly epicenter distribution in the Tokai and Southern Kanto Districts (May 2006).

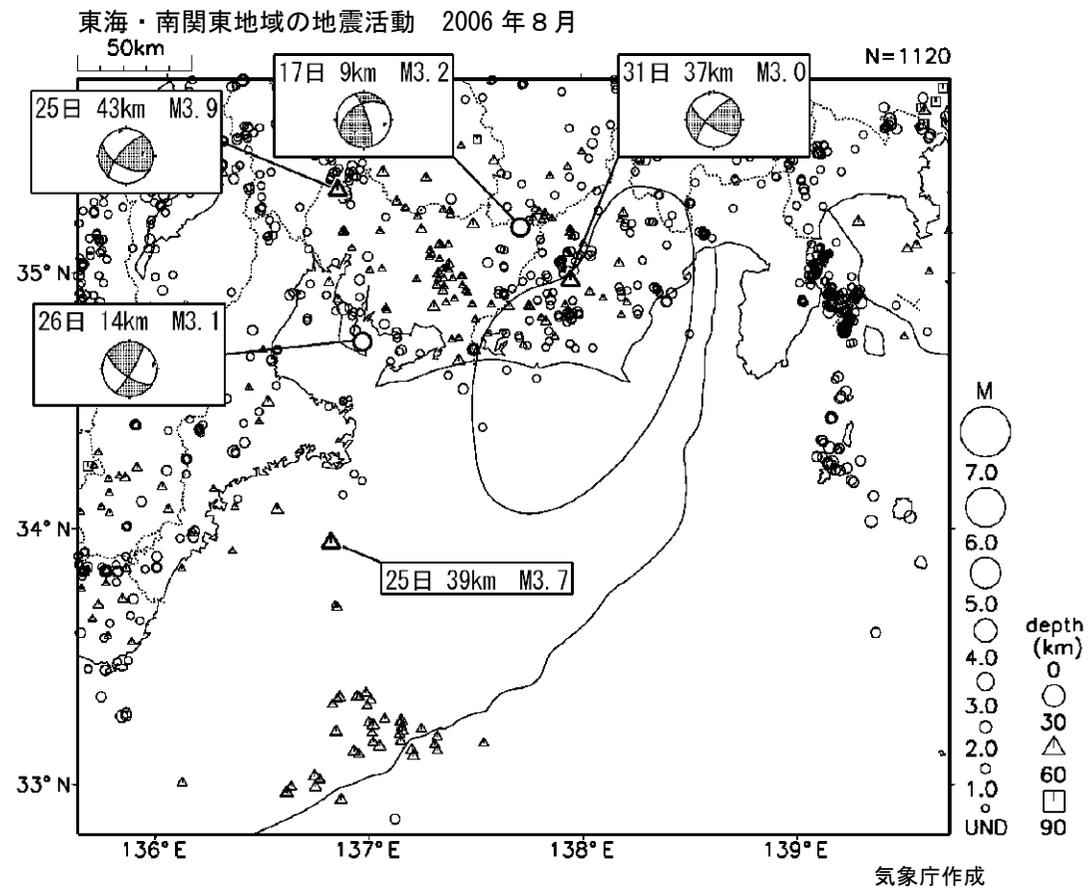


第1図 (b) つづき (2006年6月)
 Fig.1(b) Continued (June 2006).

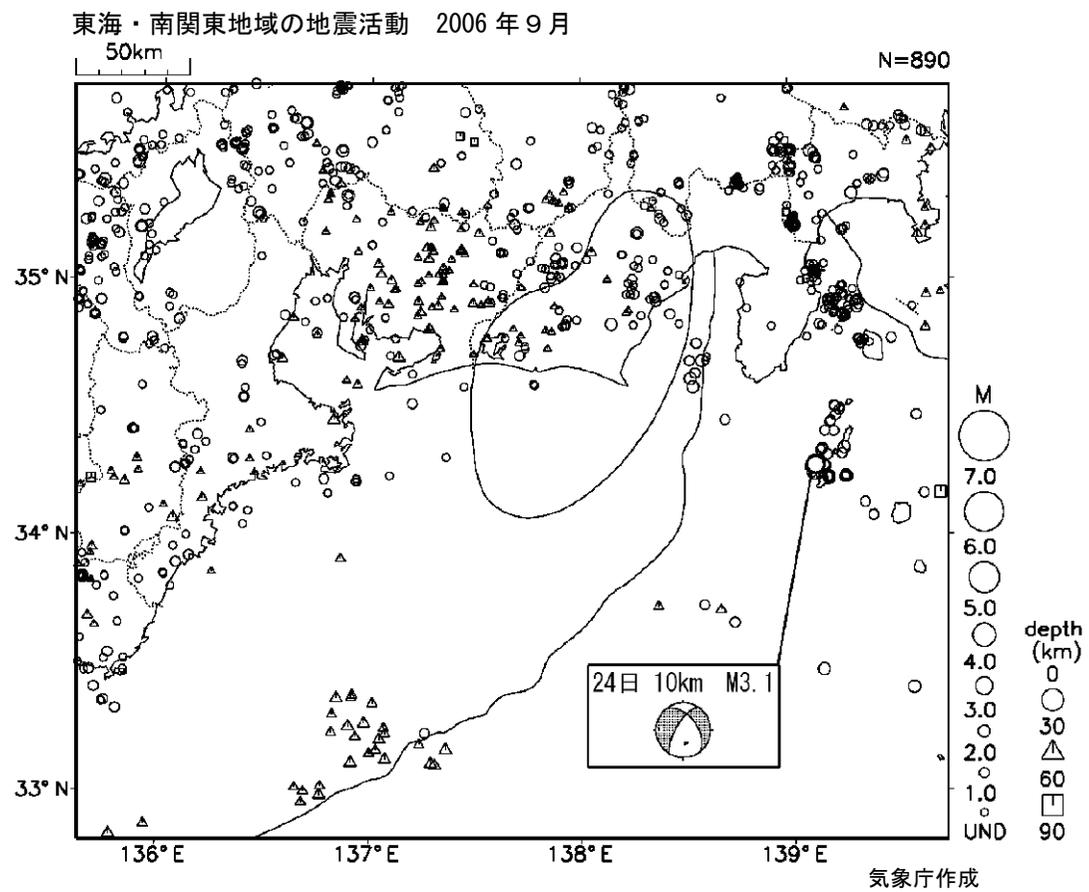


第1図(c) つづき (2006年7月)

Fig.1(c) Continued (July 2006).

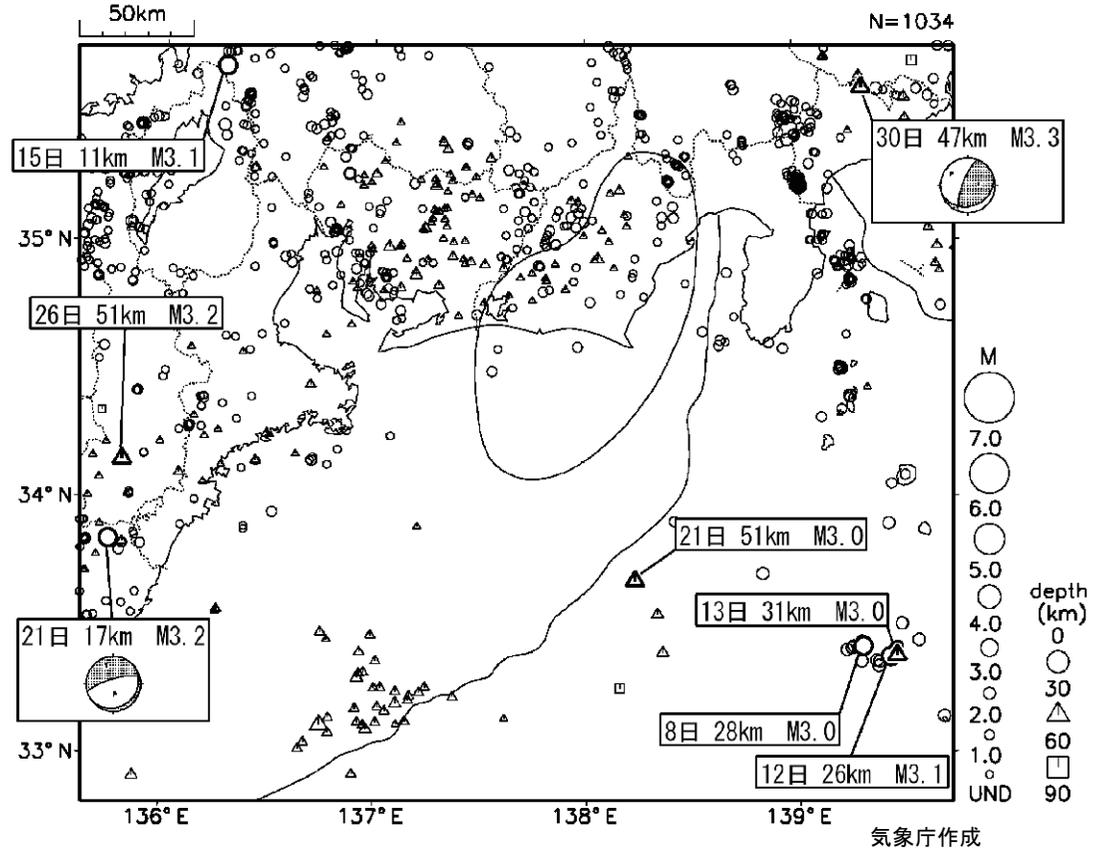


第1図(d) つづき(2006年8月)
Fig.1(d) Continued (April 2006).



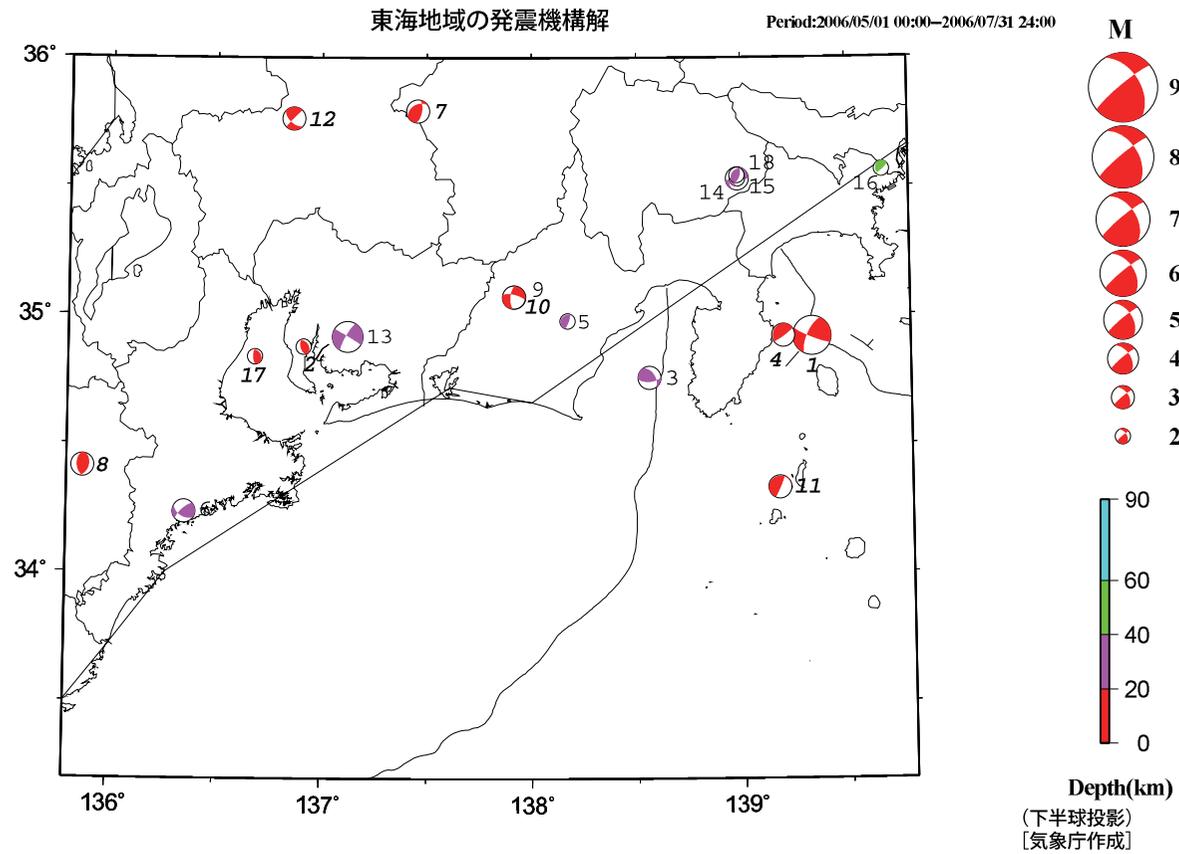
第1図 (e) つづき (2006年9月)
 Fig.1(e) Continued (September 2006).

東海・南関東地域の地震活動 2006年10月



第1図 (f) つづき (2006年10月)

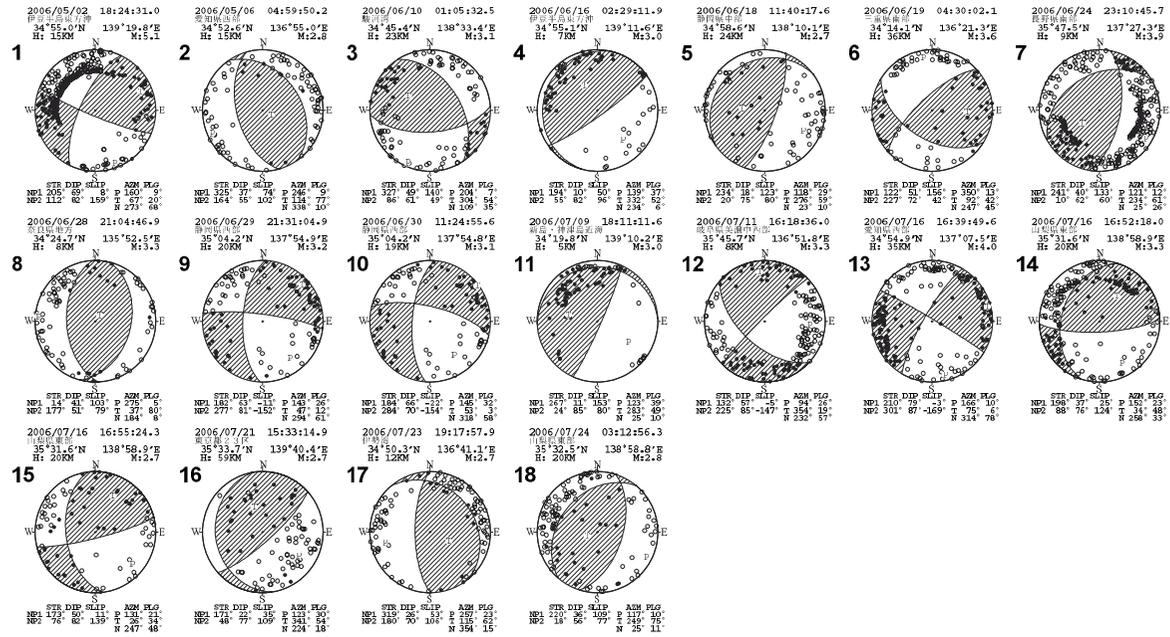
Fig.1(f) Continued (October 2006).



第2図 (a) 東海・南関東地域に発生した主な地震の発震機構解 (2006年5月～2006年7月)

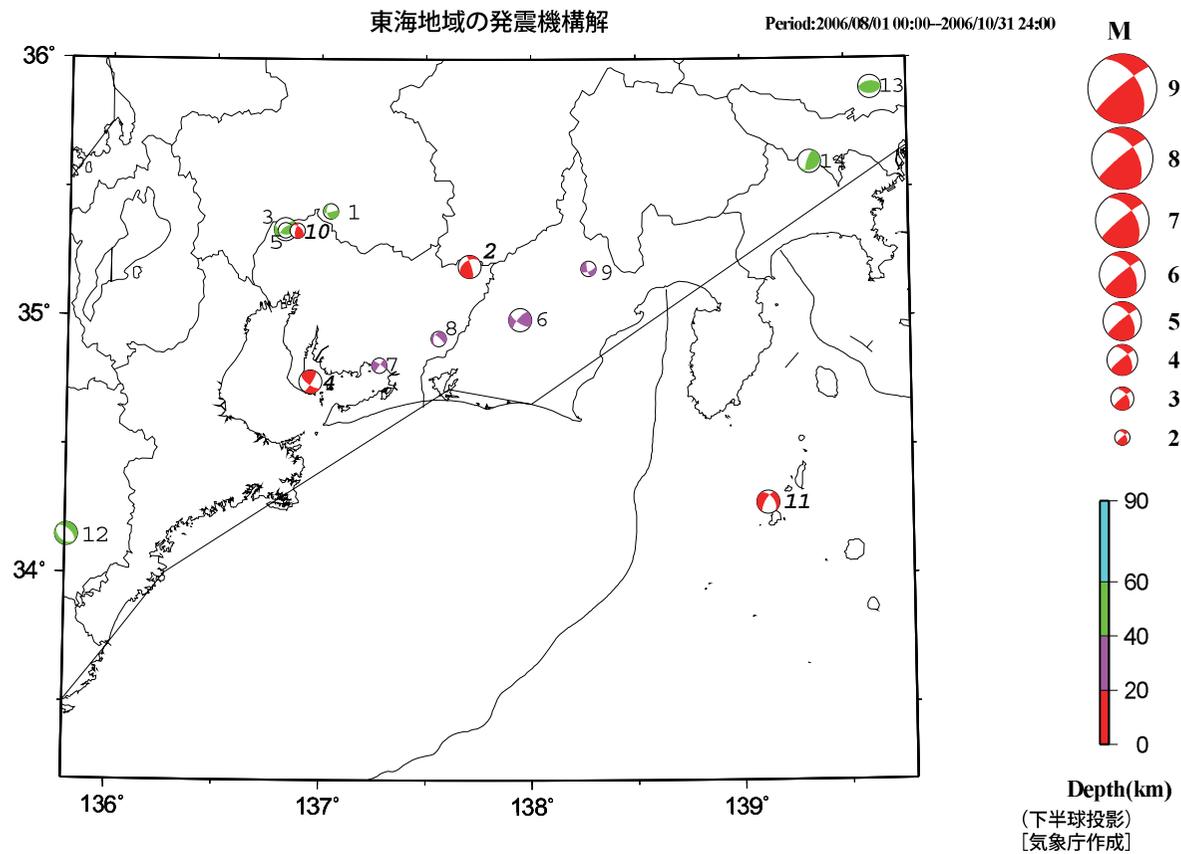
Fig.2(a) Focal mechanism solutions of major earthquakes in the Tokai and Southern Kanto Districts (May - July 2006).

東海地域の発震機構解 (2)



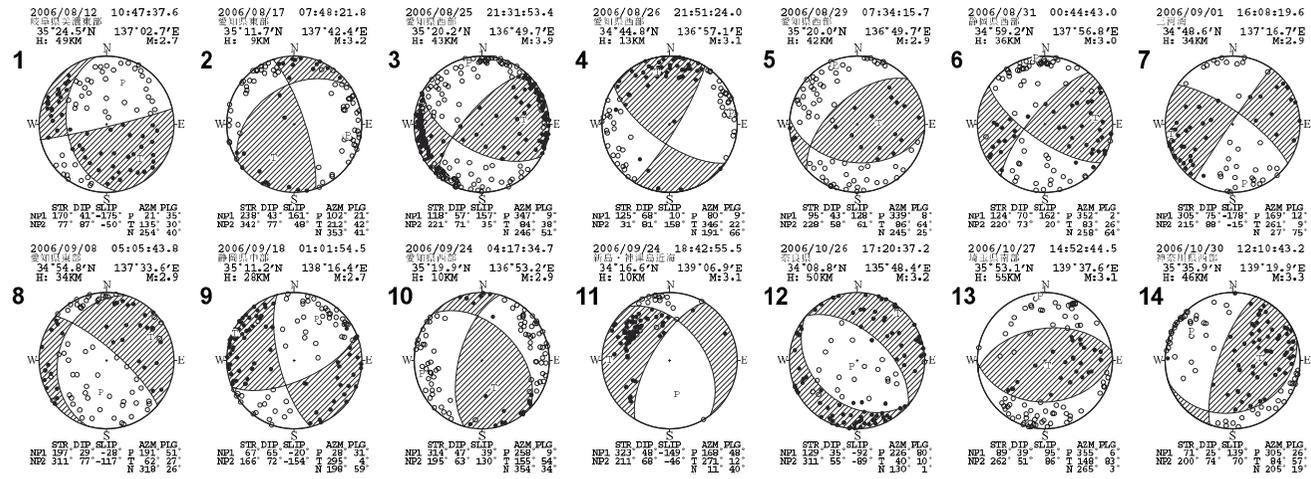
(下半球投影)
[気象庁作成]

第2図(b) つづき(2006年5月~2006年7月)
Fig.2(b) Continued (May - July 2006).



第2図 (c) つづき (2006年8月~2006年10月)
 Fig.2(c) Continued (August - October 2006).

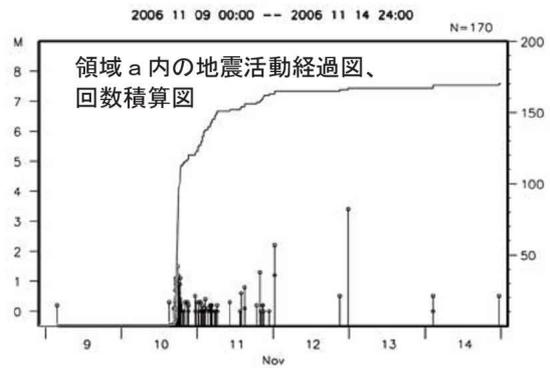
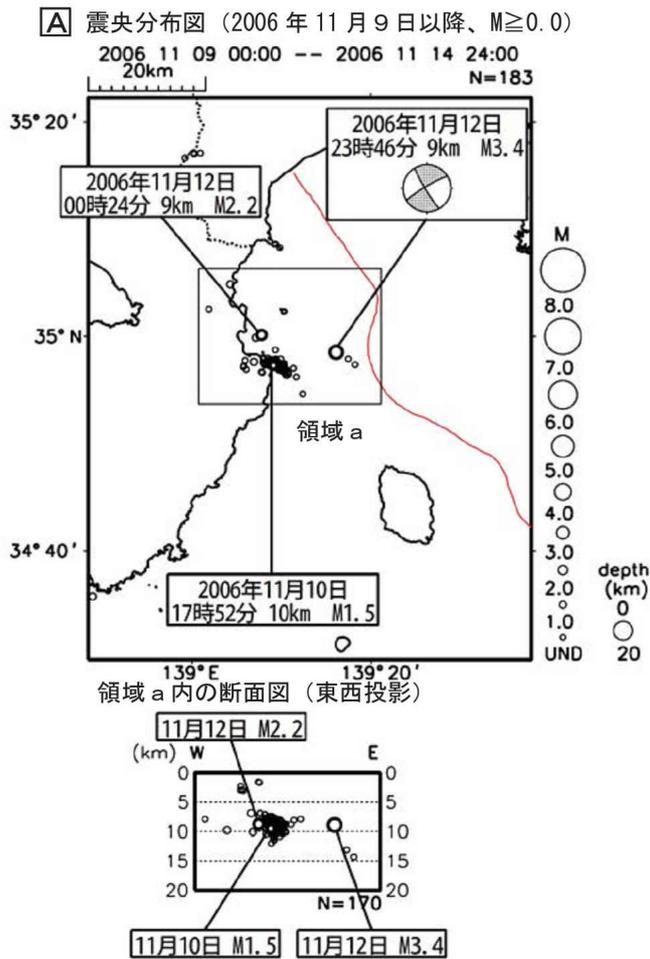
東海地域の発震機構解 (2)



(下半球投影)
[気象庁作成]

第2図(d) つづき (2006年8月～2006年10月)
Fig.2(d) Continued (August - October 2006).

11月 伊豆半島東方沖の地震活動

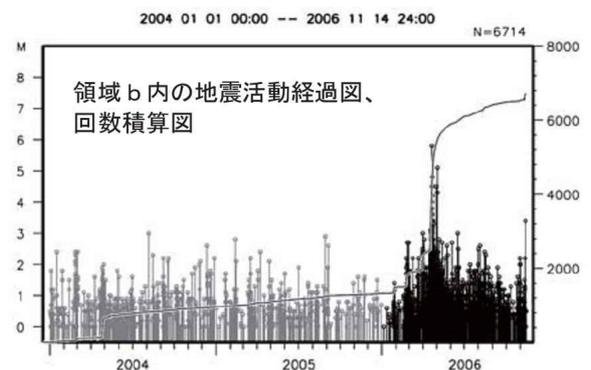
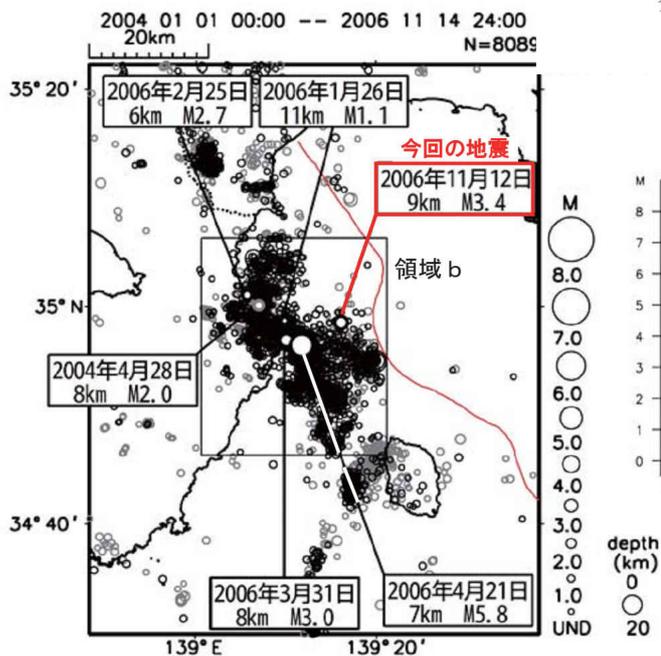


2006年11月10日から伊豆半島東方沖で地震活動が始まり12日にはほぼ収まった。最大の規模は、主な地震活動域から東に離れた場所で発生した12日23時46分のM3.4(最大震度1)の地震であった。

なお、この地震活動に先行して東伊豆の歪計データに縮みの変化が、また傾斜計データ(防災科学技術研究所)にも変化が見られたが、地震活動と共に収まった。ただし、11日6時頃からの降水の影響のため、変化の収まった時期や変化量についての詳細は不明(次頁参照)。

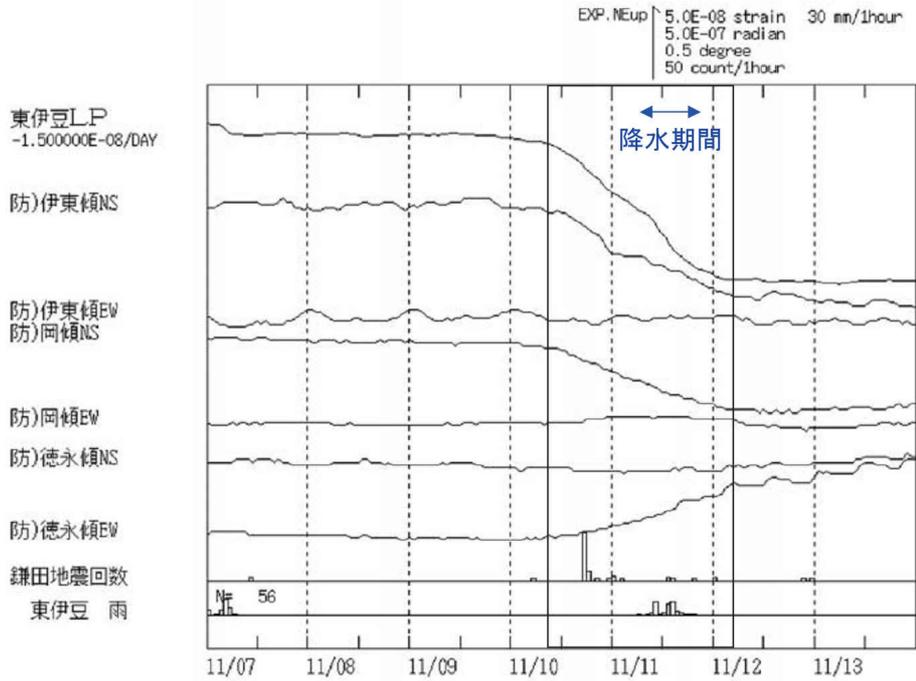
伊豆半島東方沖では2004年4月の地震活動以降、静穏な状況が続いていたが、2006年に入ってから、1月、2月、3月と小規模な地震活動の消長が繰り返されるようになり、4月にはM5.8の地震を最大規模とする比較的活動な地震活動があった。

B 震央分布図 (2004年1月1日以降、 $M \geq 0.0$)
 2006年1月以降を濃く表示



第3図 (a) 11月伊豆半島東方沖の地震活動

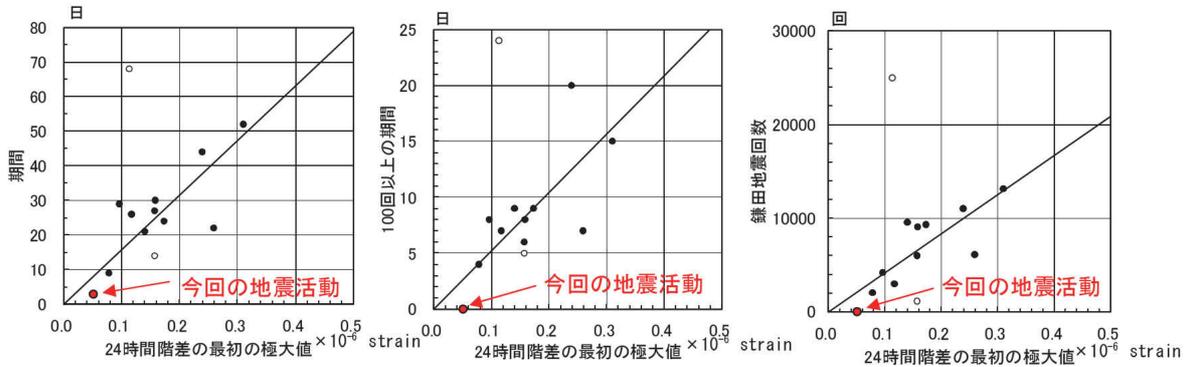
Fig.3(a) Seismic activity east off the Izu Peninsula in November, 2006.



伊豆東部周辺の歪計・傾斜計の変化(期間:2006年11月7日0時~11月13日24時)

観測点名に「防)」のついている観測点は防災科学技術研究所の傾斜計を示す。鎌田地震回数は、鎌田観測点のS-P 6秒以下で上下動速度振幅が一定振幅以上の地震の数を表す。

初期の歪変化を用いた伊豆半島東方沖の地震活動の推定
(24時間階差の最初の極大値を用いた場合)



○は計算から除外したデータ(1989年5月、1989年7月の地震活動)

気象庁・地震予知情報課(2006)【予知連会報76、203】の手法を使用。

東伊豆の歪計データの24時間階差の最初の極大値を用いて、地震活動のおおよその動向を予測した結果は下表の通りとなった。降水の影響により詳細な歪データは不明であるが、今回の地震活動の規模は、歪変化から予想される規模に比べて小さかった。

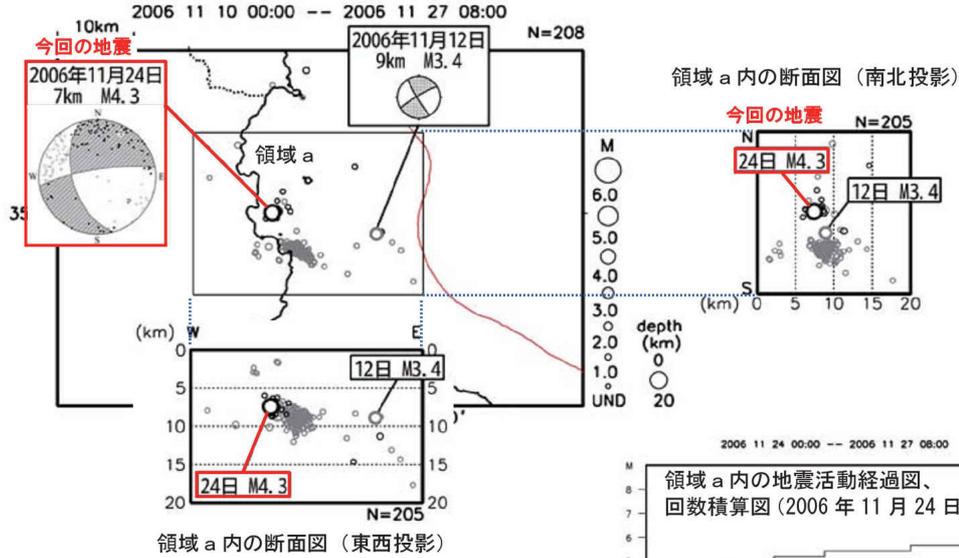
	開始日	終了日	活動期間日	鎌田地震回数	100回以上の日数
実際	06/11/10	06/11/12	3日	54回	0日
予測	—	06/11/17	8日	2,087回	3日

第3図(b) 伊豆半島東部の歪変化と地震活動予測

Fig.3(b) Strain change observed in the east of the Izu Peninsula and estimation of the seismic activity.

11月24日 伊豆半島東方沖の地震活動

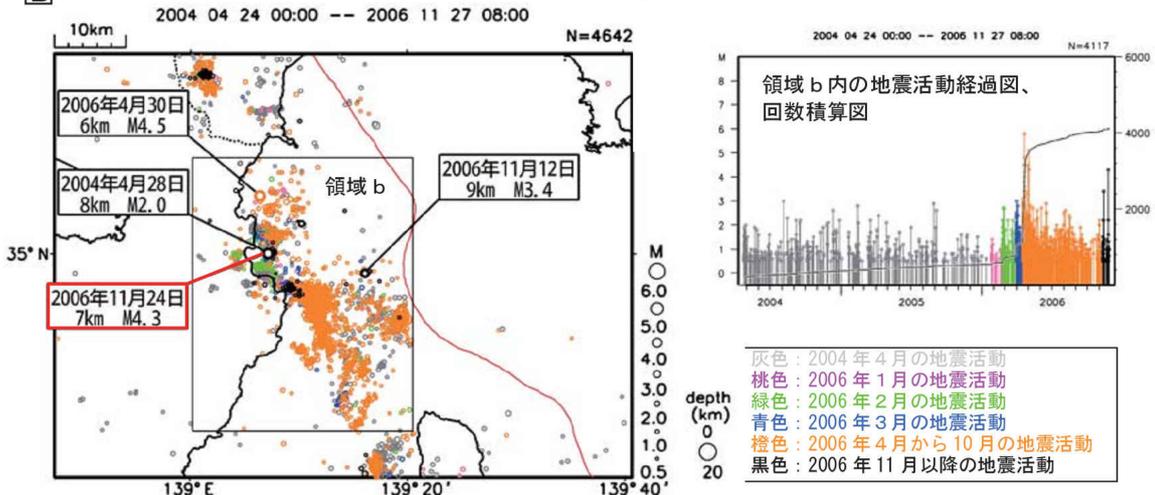
〔A〕 震央分布図 (2006年11月10日以降、 $M \geq 0.0$)。2006年11月24日以降を濃く表示



2006年11月24日03時35分に伊豆半島東方沖の深さ7kmでM4.3(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は、北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。地震活動は26日にはほぼ収まっている。今回の地震は11月10日から12日にかけて発生した地震活動域の北で発生した。〔A〕

伊豆半島東方沖では2004年4月の地震活動以降、静穏な状況が続いていたが、2006年に入ってから、1月、2月、3月と小規模な地震活動の消長が繰り返されるようになり、4月にはM5.8の地震を最大規模とする比較的活発な地震活動があった。今回の地震は、2004年4月28日に発生したM2.0の地震とほぼ同じ位置で発生した。〔B〕

〔B〕 震央分布図 (2004年4月24日以降、 $M \geq 0.5$)。地震活動期間別に色分けしている

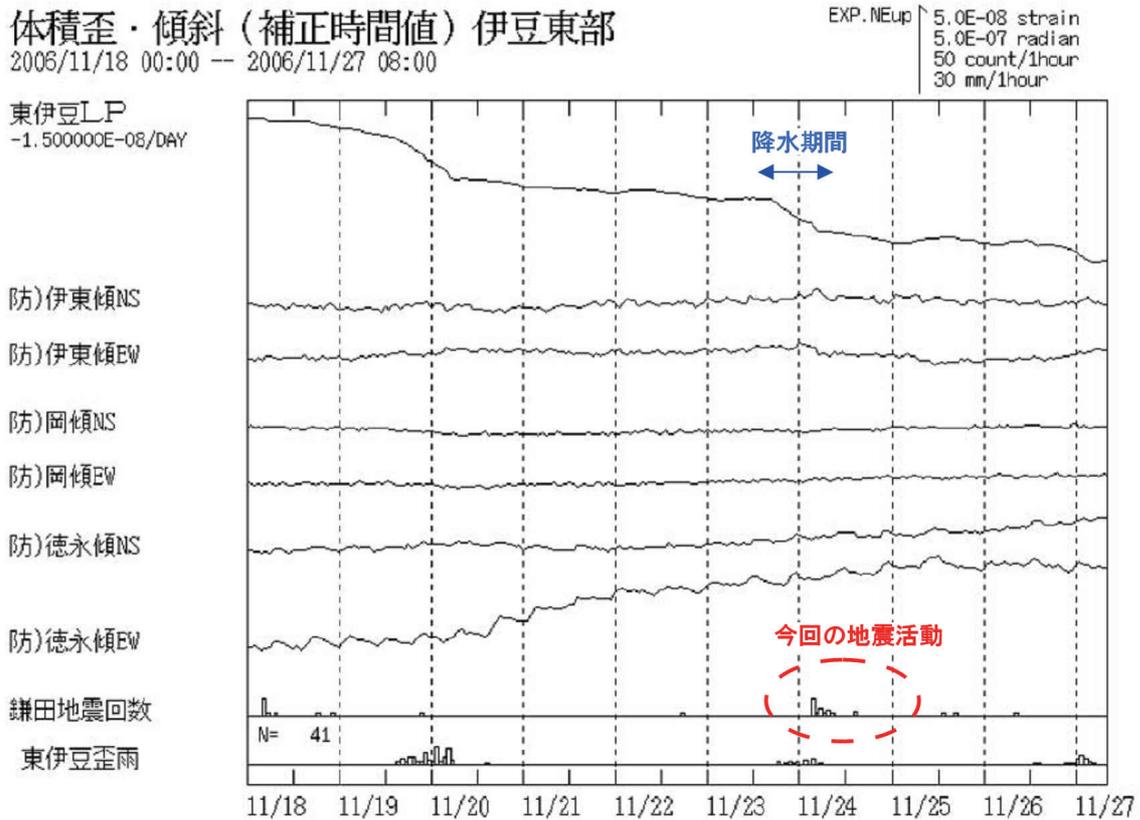


気象庁作成

第4図 (a) 11月24日伊豆半島東方沖の地震

Fig.4(a) The earthquake east off the Izu Peninsula on November 24.

伊豆東部周辺の歪計・傾斜計の変化(期間:2006年11月18日00時~11月27日08時)



観測点名に「防)」のついている観測点は防災科学技術研究所の傾斜計を示す。鎌田地震回数は、鎌田観測点のS-P 6秒以下で上下動速度振幅が一定振幅以上の地震の数を表す。

東伊豆に設置されている歪計データには、23日午後から降り始めた降水による縮み変化が記録されているため、今回の地震に先行する縮み変化があったかは現時点では不明である。

第4図 (b) 伊豆半島東部の歪変化

Fig.4(b) Strain change observed in the east of the Izu Peninsula.

伊豆半島東方沖の地震活動一覧表

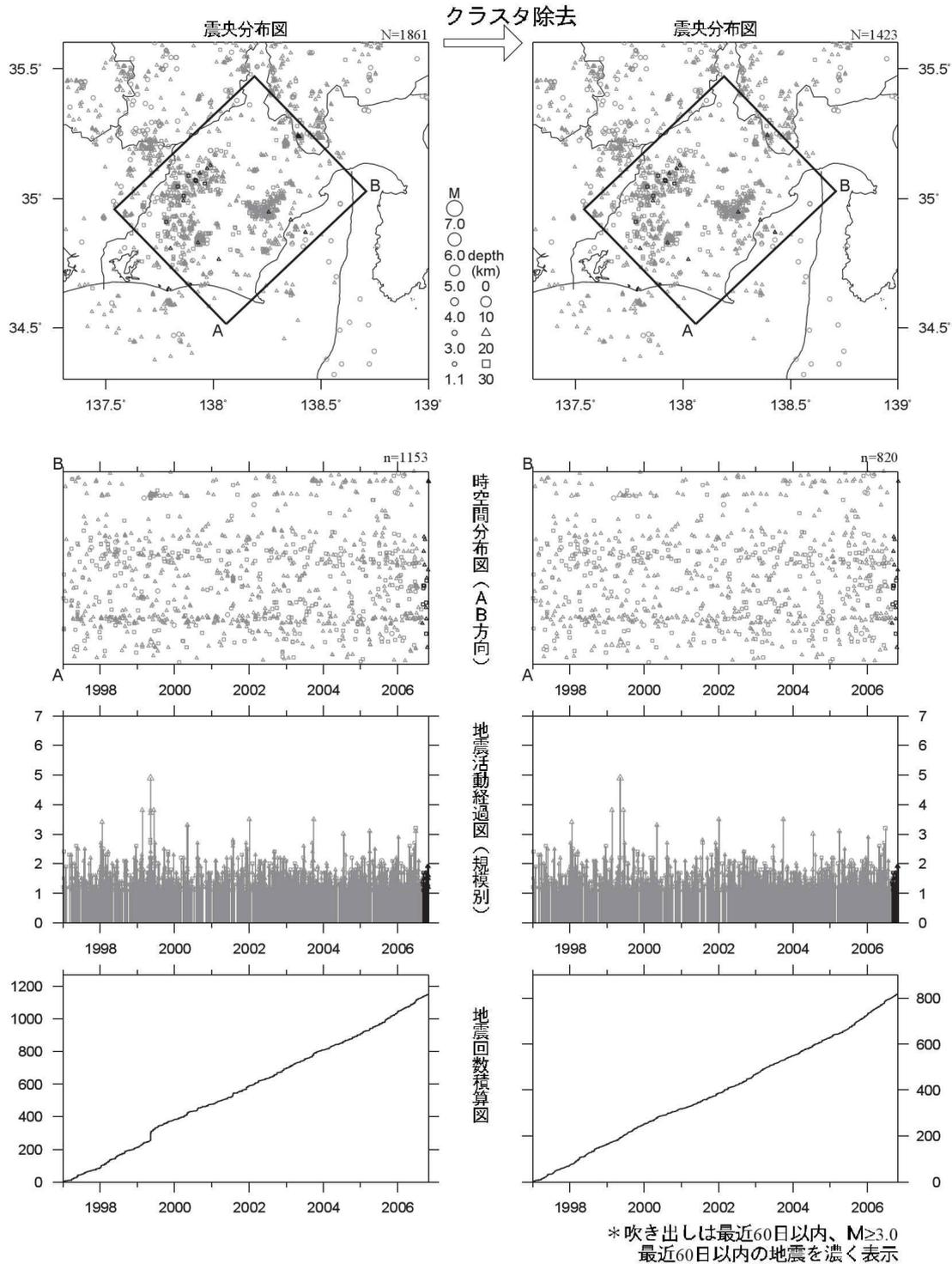
番号	開始日 年/月/日	終了日 年/月/日	期間 日	間隔 日	観測回数 回	* 24時間 回	48時間 回	最多日回数 回	100以上 100以下				M別回数				最大地震		有感地震		最大震度(地点別・内回数)		最後震度		歪変化 1.0E-06					
									100以上 経過日	100以下 経過日	3~	4~	5~	6~	M	年/月/日	経過日	回数	震度3以上	震度4以上	震度3	震度4以上								
1	78/11/23	79/02/03	73		11443	A	58	367	1011	78/12/01	8	2	25	19	1	2	5.5	78/12/03	10	26	0	1	26	4(1)	3(1)	10	*			
2	79/03/13	79/04/09	28	38	2585	A	296	580	374	79/03/17	4	1	9	3			3.5	79/03/15	2	4		3	1(3)	1(1)		*				
3	79/05/18	79/06/08	22	39	1905	B	12	153	481	79/05/20	2	2	7	5	1		4.0	79/05/20	2	7		7	2(2)	2(1)		*				
4	80/06/23	80/10/01	101	381	14081	B	8	75	1486	80/06/29	6	2	36	182	13	3	1	6.7	80/06/29	6	235	13	3	123	5(1)	5(1)	34	6		
5	82/03/10	82/03/30	21	525	392	C	9	58	100	82/03/16	6	7	8	0			1.6	82/03/15	5	0										
6	82/05/07	82/05/20	14	38	1308	B	134	242	643	82/05/11	4	2	5	0				82/05/11	4	0										
7	82/09/07	82/09/14	8	110	676	C	44	548	510	82/09/09	2	3	3	1			3.9	82/09/09	2	2			2	2(2)	2(2)					
8	83/01/14	83/02/05	23	122	2183	B	126	508	377	83/01/16	2	1	12	22	6		4.6	83/01/20	6	47	7	27	3(1)	3(7)	0					
9	84/08/30	84/10/11	43	572	5976	B	42	269	662	84/09/02	3	3	24	44	8		4.7	84/09/05	6	95	9	40	3(2)	3(9)	7					
10	85/03/16	85/05/09	55	156	2745	D	12	21	459	85/04/17	32	5	34	1			2.7	85/04/15	30	1					1(1)		-0.4 ?			
11	85/10/13	85/11/12	31	157	4212	D	16	30	1109	85/10/20	7	4	11	3	1		4.1	85/10/29	16	12	2	12	3(2)	1(3)	16		-0.5			
12	85/12/18	86/01/08	22	36	981	C	19	48	490	85/12/20	2	3	5	2			3.3	86/01/01	14	4		1	1(1)	1(4)						
13	86/10/10	86/11/01	23	275	6125	C	414	1875	2436	86/10/12	2	1	8	10	3		4.8	86/10/13	3	16	2	15	3(2)	3(1)	3		-0.6			
14	87/05/06	87/06/07	33	186	2635	C	24	47	895	87/05/11	5	5	11	38	7	1	5.1	87/05/11	5	90	8	48	3(4)	3(8)	5					
15	88/02/14	88/03/02	18	252	579	C	16	22	203	88/02/20	6	7	9	8	1		4.7	88/02/20	6	8	1	5	2(1)	3(1)	6					
16	88/04/25	88/05/01	7	54	204	A	170	179	89	88/04/26	1						2.1	88/04/30	5	0										
17	88/05/31	88/06/04	5	30	77	B	46	65	42	88/05/31	0						3.0	88/06/01	1	0										
18	88/07/26	88/09/15	52	52	17171	A	1143	1847	3292	88/07/31	5	1	15	178	39	3	5.2	88/08/02	7	289	27	4	196	4(4)	3(16)	10	6	-1.1		
19	89/05/21	89/06/03	14	248	1173	B	131	255	542	89/05/25	4	1	5	0			2.3	89/05/24	3	0							-0.5			
20	89/06/30	89/09/06	69	27	24989	C	24	256	4419	89/07/04	4	3	26	135	33	3	5.5	89/07/09	9	494	40	5	490	4(5)	4(1)	14	9	-0.8		
21	91/08/20	91/08/23	4	713	61	C	8	58	53	91/08/21	1						1.5	91/08/20	0	0										
22	91/12/25	92/01/01	8	124	354	A	207	324	161	91/12/26	1	1	3	0			2.7	91/12/26	1	3		3	1(3)							
23	93/01/10	93/01/18	9	375	2064	A	659	1609	995	93/01/11	1	1	4	17	1		4.2	93/01/10	0	38	2	38	3(2)	2(2)	2		-0.2			
24	93/05/26	93/06/15	21	128	9567	A	1909	3426	2334	93/05/27	1	1	9	67	14		4.8	93/05/31	5	174	12	2	174	4(2)	4(4)	3(2)	8	8	-0.6	
25	94/01/03	94/01/09	7	202	55	B	36	41	25	94/01/03	0						2.1	94/01/03	0	0										
26	94/02/27	94/03/12	14	49	300	A	90	126	53	94/02/28	1			0	1		4.2	94/02/27	0	1		1	1(1)	2(1)						
27	94/11/14	94/11/20	7	247	66	C	15	25	17	94/11/16	2						4.0	94/11/16	2	1		1	2(1)	2(1)						
28	95/09/11	95/09/15	5	295	201	B	79	188	125	95/09/12	1	2	3	0			2.1	95/09/12	1	0							-0.1			
29	95/09/18	95/09/23	6	3	190	A	171	179	107	95/09/18	0	1	2	0			2.4	95/09/21	3	0							-0.1			
30	95/09/29	95/10/28	30	6	9078	A	2715	3660	1626	95/09/29	0	1	8	58	11	1	5.0	95/10/01	2	153	17	5	134	4(1)	4(4)	3(2)	6	11	-0.8	
31	96/07/02	96/07/28	27	248	315	D	4	5	61	96/07/15	13						1.9	96/07/12	10	0										
32	96/10/15	96/11/10	27	79	6005	A	1901	3958	2172	96/10/16	1	2	7	21	1		4.3	96/10/16	1	43	1	1	34	3(1)	4(1)	2(2)	1		-0.5	
33	96/12/17	96/12/24	8	37	75	C	36	47	21	96/12/18	1						4.1	96/12/17	0	0										
34	97/03/03	97/03/26	24	69	9334	A	1485	2907	2001	97/03/07	4	1	9	120	15	3	5.9	97/03/04	1	449	32	10	205	4(5)	5-(2)	4(1)	7	5	-0.6	
35	97/06/20	97/06/26	7	86	57	C	33	43	29	97/06/21	1						2.6	97/06/21	1	1		1	1(1)	1(1)	0					
36	97/06/27	97/07/15	19	1	446	C	33	85	132	97/06/30	3	3	4	0			2.0	97/07/04	7	0							-0.1			
37	98/04/20	98/06/02	44	279	11033	A	519	1152	1687	98/04/22	2	1	21	147	15	1	5.9	98/05/03	13	211	11	5	175	4(3)	4(5)	4(1)	16	14	-1.0	
38	02/05/08	02/05/15	8	1436	399	B	148	283	146	02/05/09	1	2	4	0			1.5	02/05/12	4	0							-0.2			
39	03/06/13	03/06/21	9	394	641	B	572	602	574	03/06/14	1	2	3	0			2.3	03/06/14	1	0							-0.1			
40	04/04/24	04/05/02	9	308	323	B	43	182	140	04/04/25	1	1	2	0			2.0	04/04/28	4	0							-0.1			
41	06/01/25	06/01/31	7	633	62	B	56	57	51	06/01/26	1						1.1	06/01/26	1	0							-0.05			
42	06/02/21	06/03/02	10	21	199	A	99	130	83	06/02/23	2						2.8	06/02/25	4	2		2	2(2)	1(1)	0		-0.08			
43	06/03/30	06/04/10	12	28	565	A	451	480	281	06/03/30	0	1	2	1			3.1	06/03/31	1	2		2	1(2)	0	1(1)		-0.2			
44	06/04/17	06/05/12	26	7	3008	A	1235	1557	954	06/04/18	1	1	7	16	7	2	0	5.8	06/04/21	4	49	4	3	25	5-(1)	4(1)	4(1)	16	16	-0.4
45	06/11/10	06/11/12	3	182	54	A	48	51	42	06/11/10	0						3.4	06/11/12	2	1			1(1)	0	0		-0.10			

・間隔: 前回の活動の終了日からの日数(休止期間)
 ・観測回数: 伊東市観測点で観測された地震回数
 ・* (始まりの状況): 地震が多発し始めた時から29回以上になるまでの時間
 A: 数時間以内、B: 24時間以内、C: 48時間以内、D: その他
 ・24 回数: 地震が多発し始めた時から24時間以内の観測回数
 ・48 回数: 地震が多発し始めた時から48時間以内の観測回数
 ・経過日: 開始日からの日数
 ・100以上: 日回数が100回以上になるまでの日数
 ・100以下: 日回数が100回以下になるまでの日数
 ・M別回数: 「3~」は、3.0~3.9、以下同様
 ・観測: 観測所(熱海市観測所、2003年9月30日閉鎖)
 ・伊東: 93年5月28日と95年9月29日は臨時観測
 96年10月15日以降は伊東市大原
 ・大島: 大島観測所(92年1月に大島町元町字家の上に移転。それ以前は大島町元町字津倍付。ただし、96年10月15日と97年3月3日は大島町元町字津倍付、97年4月以降は大島町元町字家の上)
 ・5-: 震度5弱
 ・最後震度: 活動期間中最後に発生した最大震度3あるいは4以上の地震の活動開始日からの経過日数
 ・歪変化: 東伊豆体積歪計の変化量、地震時のステップ状変化は除く(*: 未設)

第5図 伊豆半島東方沖の地震活動一覧表

Fig.5 Table of seismic activities east off the Izu Peninsula.

固着域（地殻内）
1997/1/1~2006/10/31 M \geq 1.1

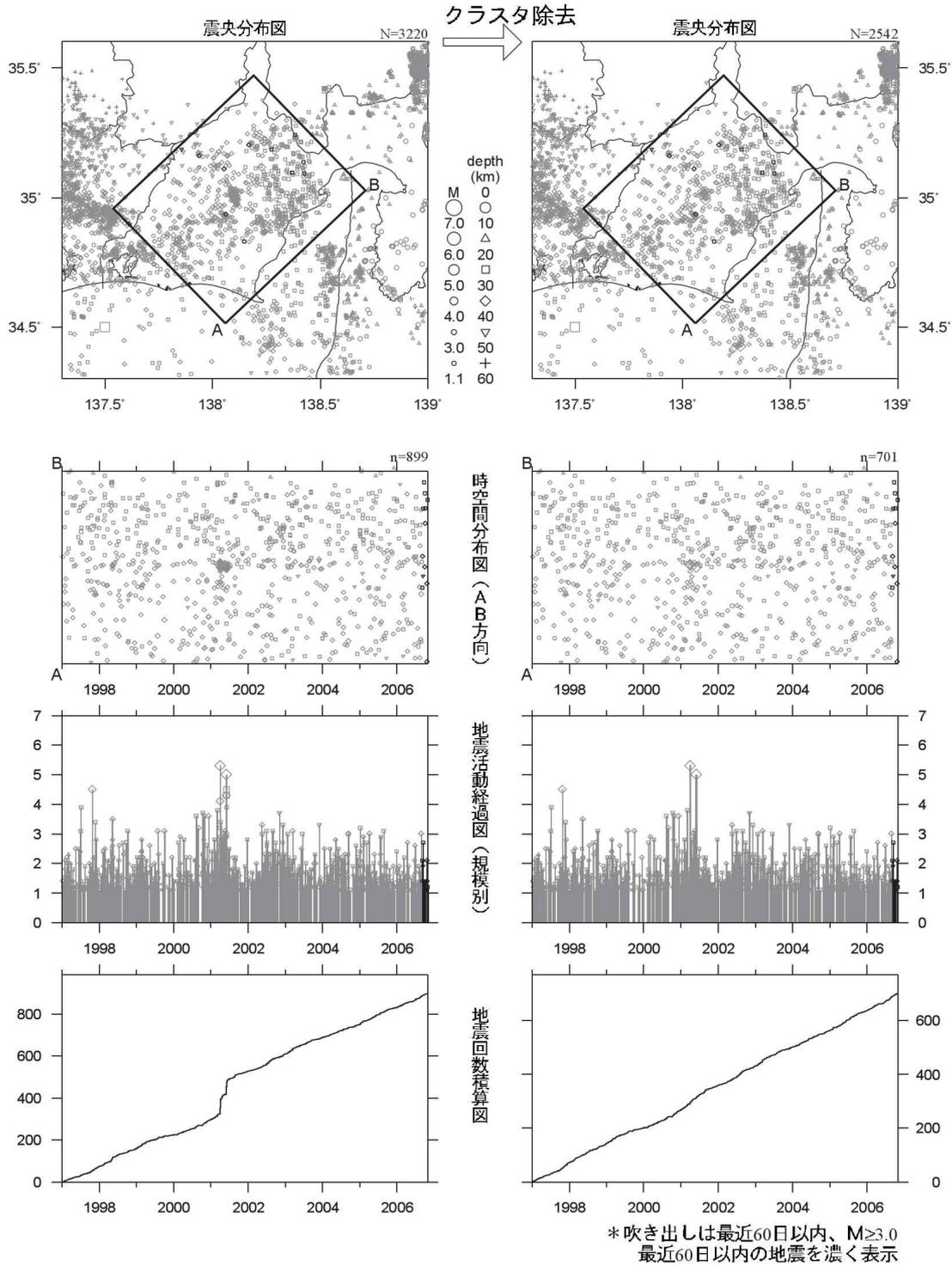


気象庁作成

第6図 東海地震の想定震源域内の固着域周辺の地震活動（地殻内，M \geq 1.1，1997年以降）
（右側の図はクラスタ除去したもの）

Fig.6 Seismic activity in the crust near the locked zone of the anticipated Tokai earthquake since 1997 (M \geq 1.1). Right figures show activities of declustered earthquakes.

固着域 (フィリピン海プレート内)
1997/1/1~2006/10/31 M ≥ 1.1



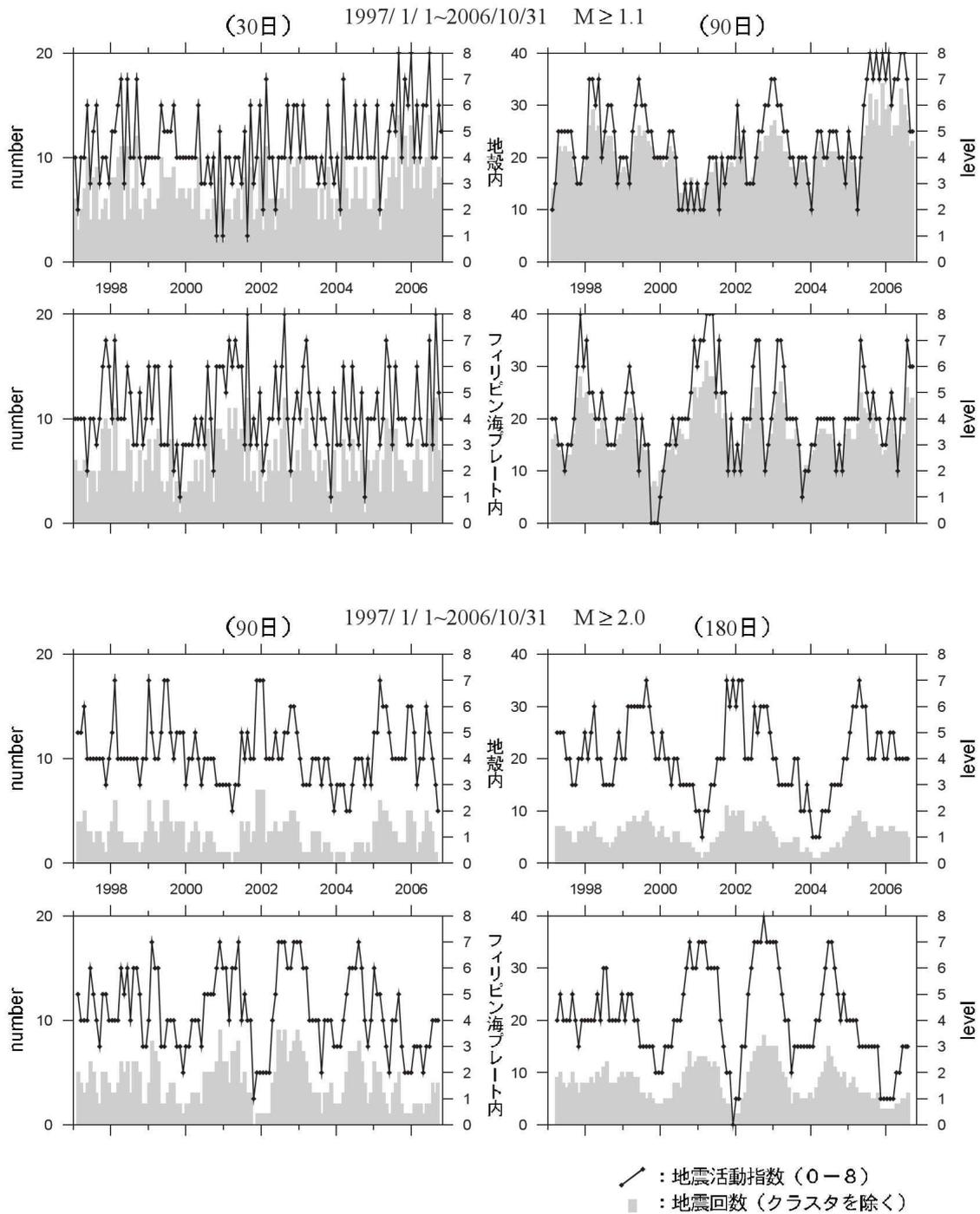
気象庁作成

第7図 東海地震の推定固着域周辺の地震活動 (フィリピン海プレート内, $M \geq 1.1$, 1997年以降) (右側の図はクラスタ除去したもの)

Fig.7 Seismic activity in the Philippine Sea slab near the locked zone of the anticipated Tokai earthquake since 1997 ($M \geq 1.1$). Right figures show activities of declustered earthquakes.

地震活動指数の推移

① 固着域



気象庁作成

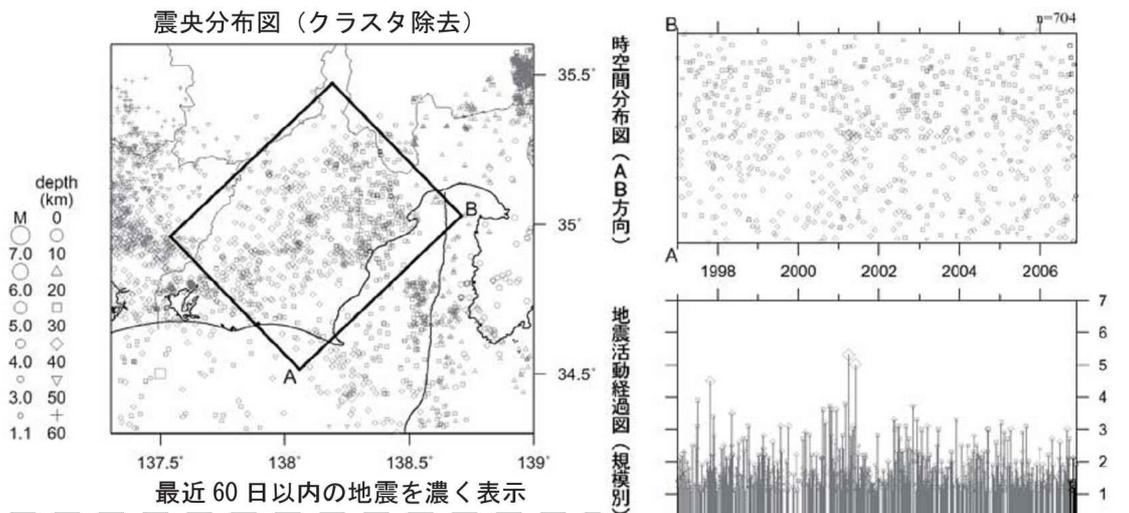
第 8 図 東海地震の推定固着域周辺の地震活動指数の推移 (1997 年以降)

Fig.8 Time series of seismic activity level in the locked zone of the anticipated Tokai earthquake since 1997.

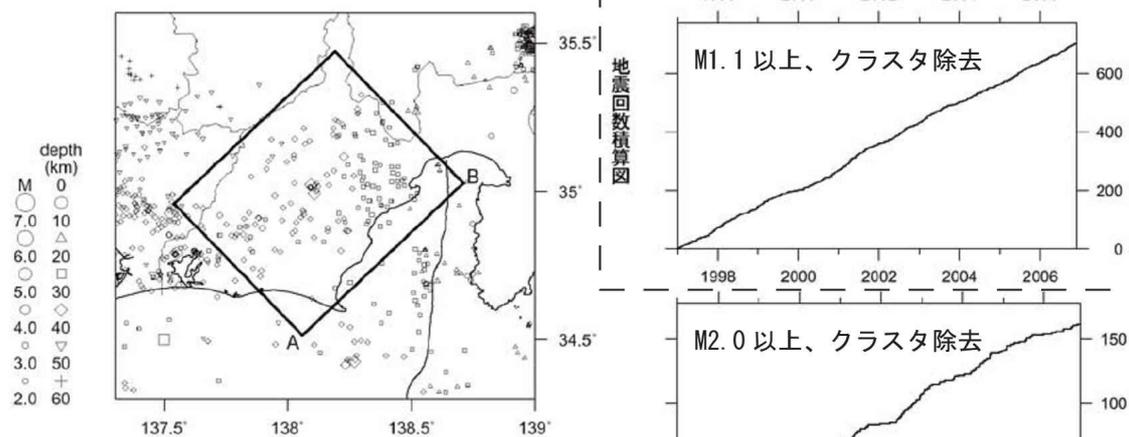
固着域（フィリピン海プレート内）

[M1.1 以上]

1997/1/1~2006/11/22



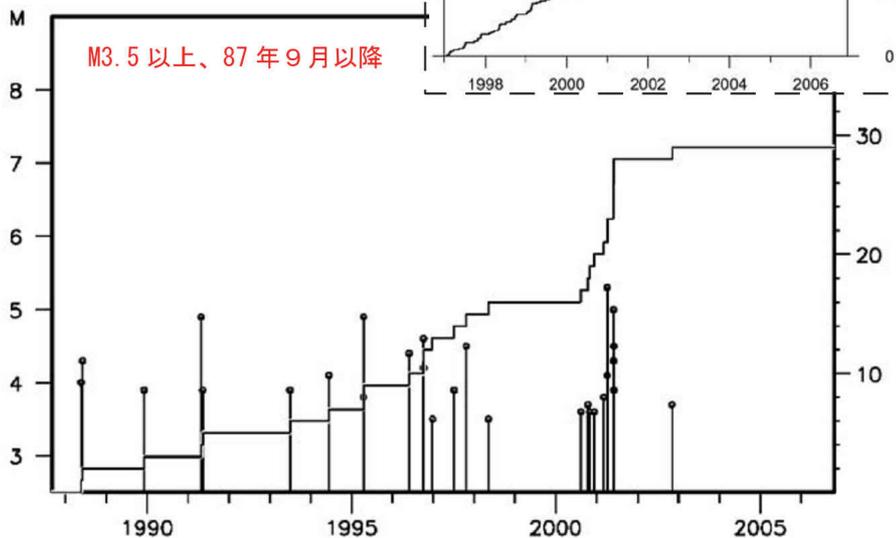
[M2.0 以上]



[M3.5 以上]

2001 年後半ごろから M3.5 以上の地震発生回数は少ない。98 年後半～2000 年前半にも静穏な時期があった。

M2.0 以上では、2005 年半ば以降やや静穏な様子が見える。

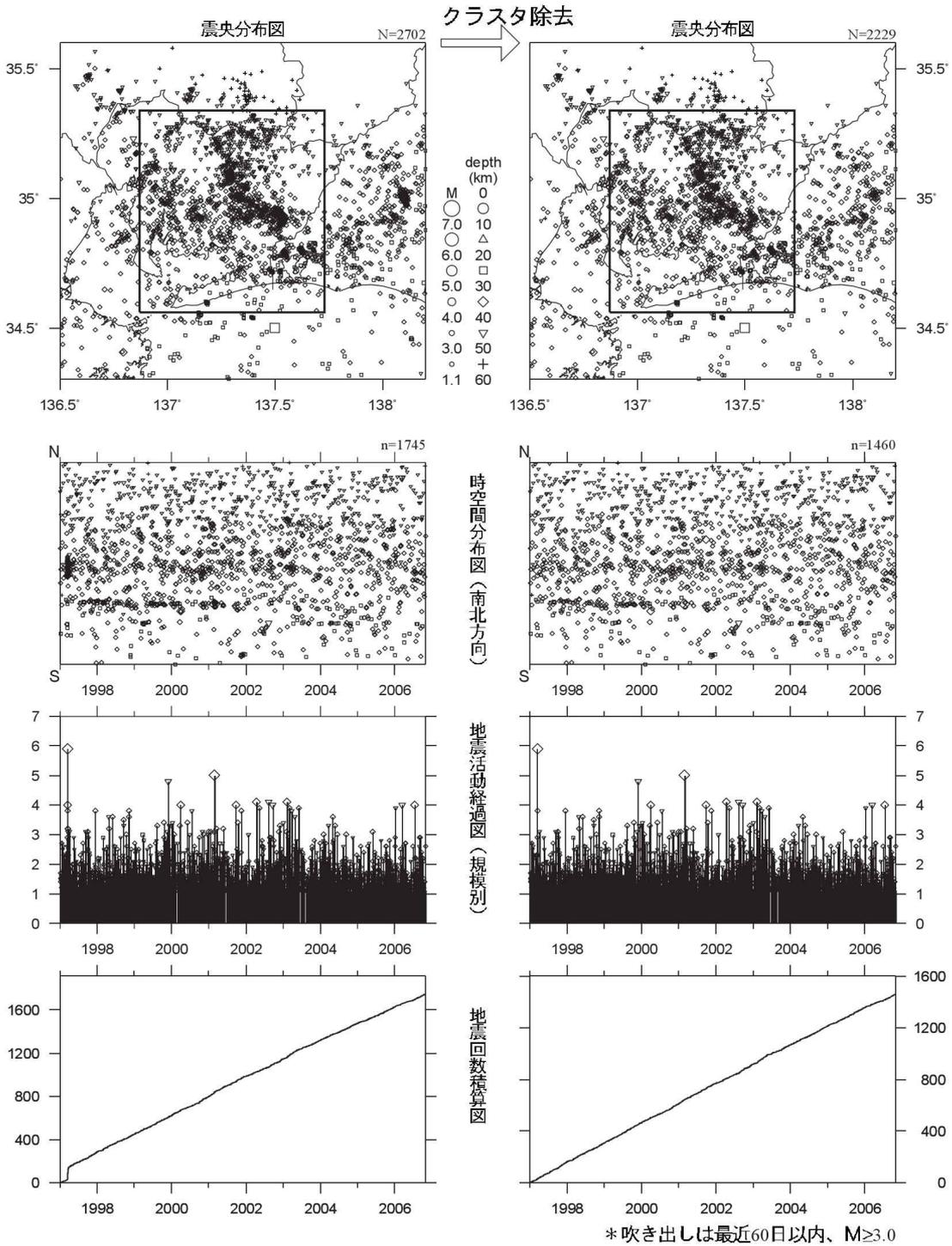


気象庁作成

第 9 図 推定固着域周辺の地震活動（フィリピン海プレート内、 $M \geq 1.1, 2.0$, 1997 年以降、クラスタ除去、および $M \geq 3.5$, 1987 年 9 月以降）

Fig.9 Seismic activity in the Philippine Sea slab near the locked zone of the anticipated Tokai earthquake. The bottom figure shows seismic activity since September 1987 ($M \geq 3.5$). This figure shows quiescence started late in 2001.

愛知県（フィリピン海プレート内）
1997/1/1~2006/10/31 M ≥ 1.1



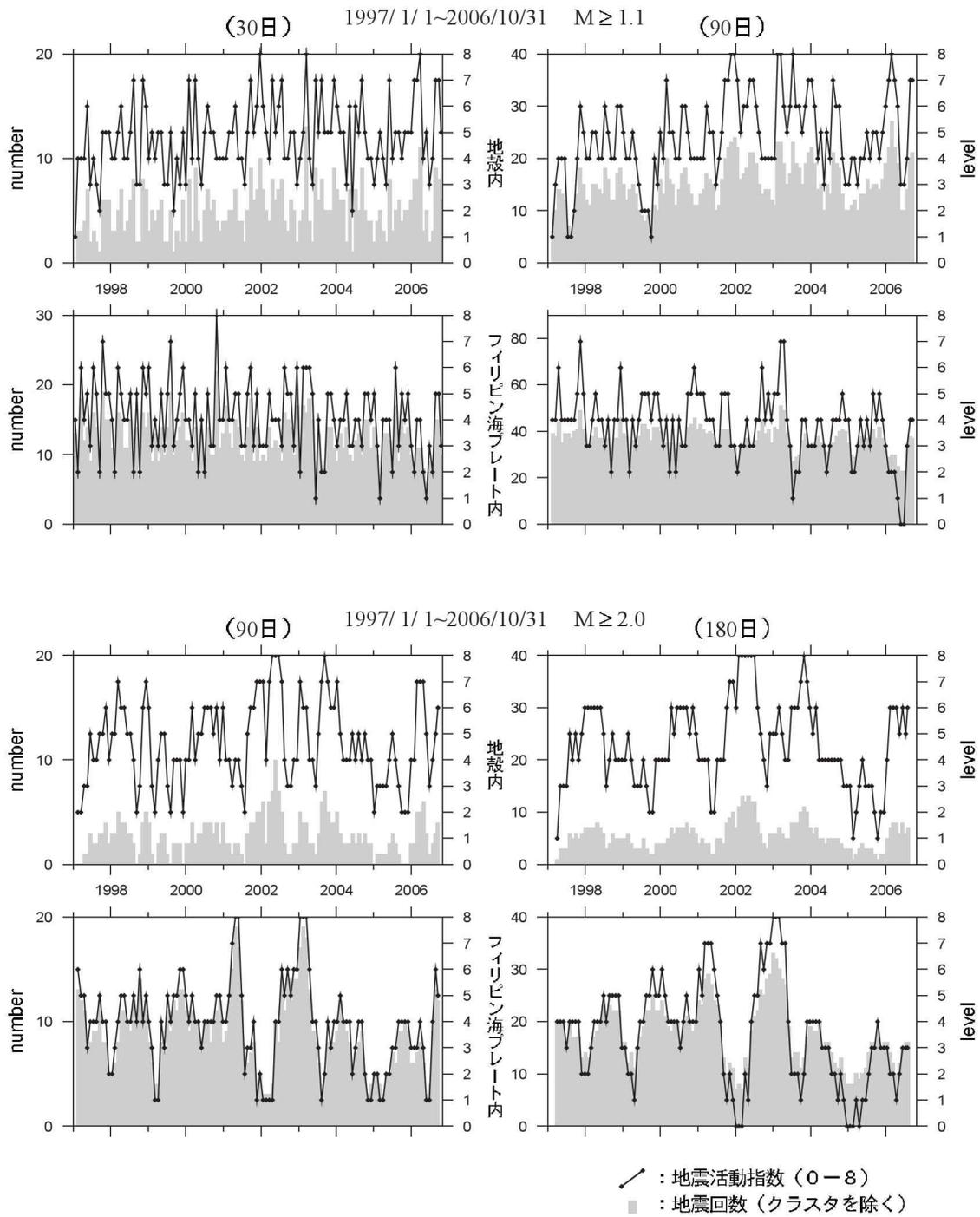
気象庁作成

第10図 愛知県のフィリピン海プレート内の地震活動 (M ≥ 1.1, 1997年以降) (右側の図はクラスタ除去したもの)

Fig.10 Seismic activity in the Philippine Sea slab in Aichi Prefecture since 1997 (M ≥ 1.1). This area is adjacent to the locked zone of the anticipated Tokai earthquake. Right figures show activities of declustered earthquakes.

地震活動指数の推移

② 愛知県

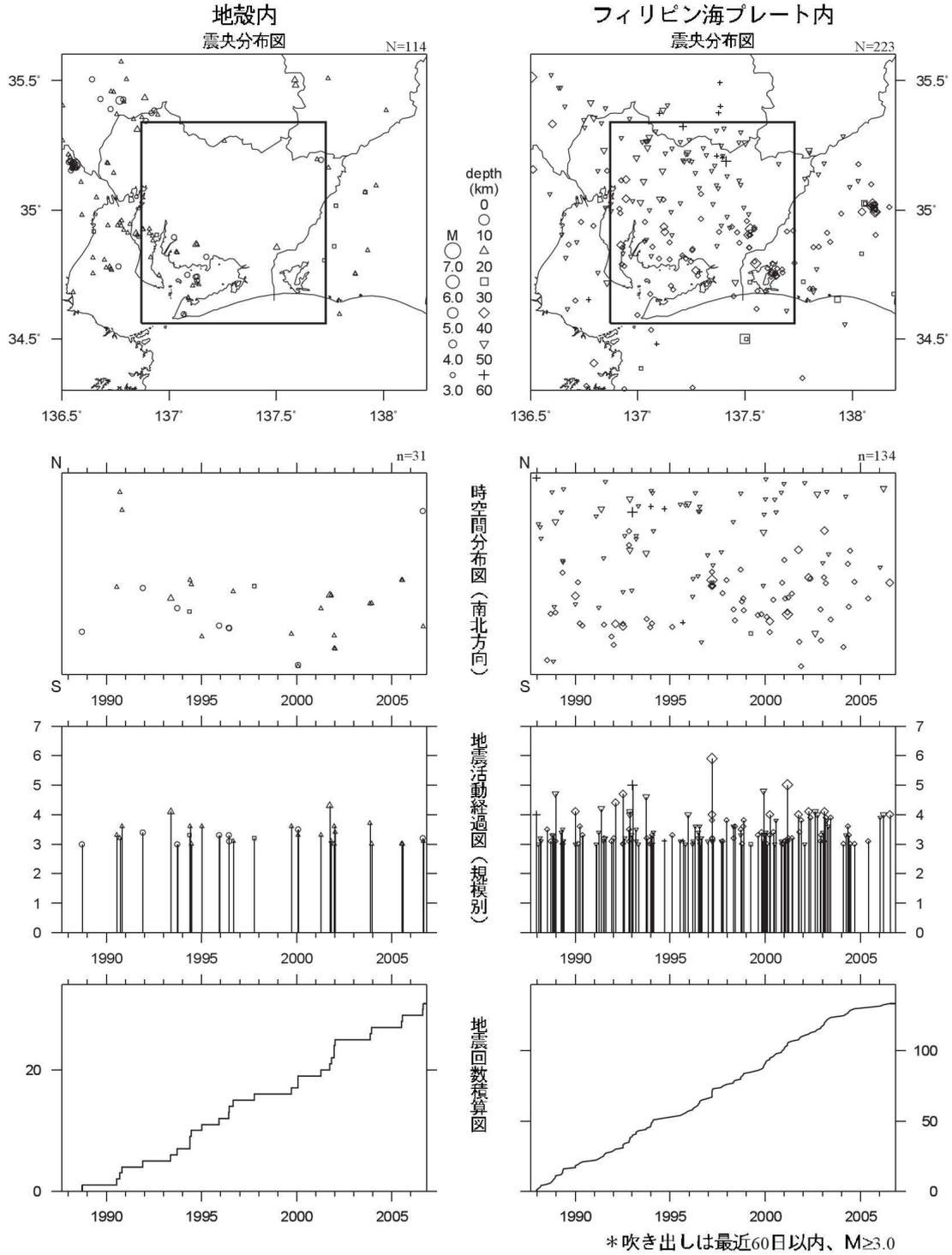


気象庁作成

第 11 図 愛知県の地震活動指数の推移 (1997 年以降)

Fig.11 Time series of Seismic activity level in Aichi Prefecture since 1997.

愛知県（長期）
1987/9/1~2006/10/31 M ≥ 3.0

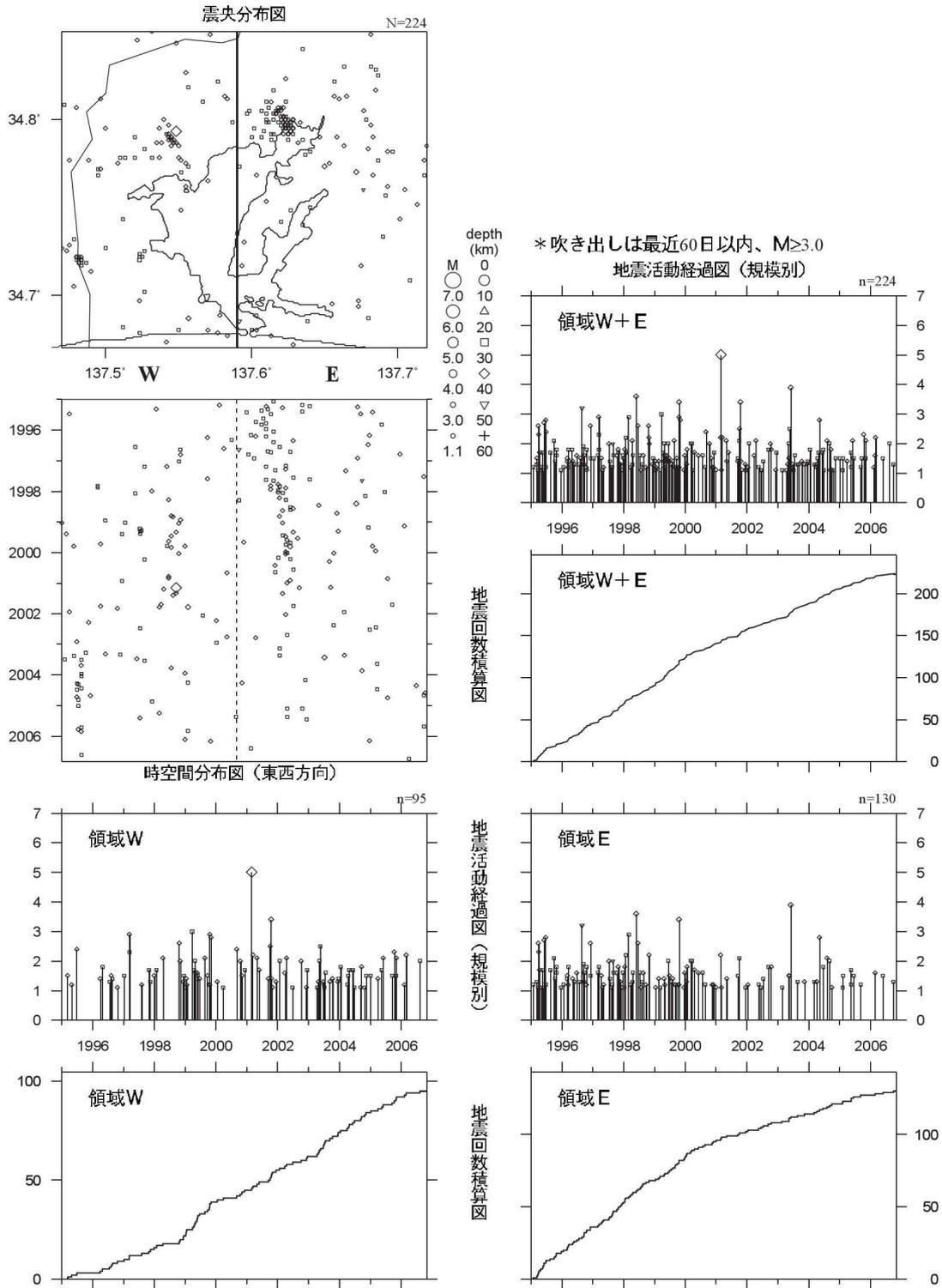


気象庁作成

第12図 愛知県の地殻内とフィリピン海プレート内の地震活動(M ≥ 3.0, 1987年9月以降)
Fig.12 Seismic activity in crust and the Philippine Sea slab in Aichi Prefecture since September 1987 (M ≥ 3.0). This area is adjacent to the locked zone of the anticipated Tokai earthquake.

浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/1/1~2006/10/31 M \geq 1.1 *クラスタ除去したデータ



気象庁作成

第13図 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動（クラスタを除く）
 Fig.13 Activity of declustered earthquakes in the Philippine Sea slab near the Lake of Hamanako region.